

科目名	看護解剖生理学Ⅳ 骨格系・筋系・神経系（体を支え、動かし、伝達するしくみ）					DP4 DP6	看護高等課程
学年	1年	分野	専門基礎 人体のしくみと働き	時間数	25時間	担当 教員	専任（基幹）教員（6.5） 外部講師（6.5） 専任（基幹）教員（12）
科目 概要	人体の解剖生理学の知識は、看護の重要な役割である日常生活行動の援助の土台となる。また、ほとんどの日常生活行動は、複数の器官が関与して行われる複雑な機能であり、生活行動の観点から学ぶ。ここでは、骨格系・筋系・神経系の解剖生理から体を支え、動かし、伝達するしくみを学ぶ。						
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体を支えるしくみを理解することができる。</li> <li>2. 体を動かすしくみを理解することができる。</li> <li>3. 情報を収集して判断し、伝達するしくみを理解することができる。</li> </ol>						
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員
1～3	骨学総論	骨の形状・構造・骨の発生とリモデリング、骨の化学的成分、骨の連結				講義	専任（基幹） 教員
	体幹の骨、上肢の骨、 下肢の骨、頭部の骨	脊柱、胸郭、骨盤、上肢骨、下肢骨、頭蓋					
	骨と軟骨の生理	骨の成分、骨の機能、軟骨の生理					
4～6	筋学総論	筋の形状、筋の補助装置、筋の神経支配				講義	外部講師
	体幹、上肢、下肢、頭部 の筋	頸部、胸部、腹部、背部、上肢、下肢、頭部の筋					
	興奮性組織の一般生理 筋の生理	静止電位と活動電位、閾値と全か無かの法則 興奮の殿堂と伝達、筋の収縮、平滑筋					
7～12	神経細胞とその働き	神経細胞、興奮の伝導と伝達				講義	専任（基幹） 教員
	中枢神経系、末梢神経系 の構造と機能	中枢神経系（脊髄、脳、伝導路、髄膜、脳室と脳脊 髄液、脳の血管系、脳循環、脳波、睡眠、条件反 射） 末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経系）					
13	試験	(1時間)				試験	
評価 基準	専任（基幹）教員（25点）、（50点）、外部講師（25点）の合計100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。						
教科書	看護学入門1 人体のしくみと働き 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							